

令和5年 第3回北九州市立図書館協議会 会議録

日時： 令和5年7月5日(水) 14:00～16:00

場所： 北九州市立子ども図書館2階 大研修室

出席者

○委員(会長他11名、欠席委員3名)

北九州市立大学前図書館長	中尾 泰士(会長)
北九州市学校図書館協議会会長	本田 壽志
福岡県公立高等学校校長協会北九州地区会長	谷川 陽一
北九州市PTA協議会副会長	福田 百合加(副会長)
(一社)北九州市保育所連盟副会長	北野 久美
(一社)北九州青年会議所理事	末吉 智久美
公募委員	山中 啓稔
北九州市社会教育委員	宮本 和代
北九州市婦人団体協議会監査	吉松 喜美子
北九州市障害福祉団体連絡協議会会長	林 芳江
九州国際大学図書館長	山口 秋義
公募委員	鈴木 研

○事務局(中央図書館長他9名)

中央図書館長	柴田 憲志
中央図書館副館長、子ども図書館長	金子 二康
中央図書館運営企画課長	藤原 定男
中央図書館奉仕課長	綾塚 由美子
中央図書館運営企画課庶務係長	内徳 誠治
中央図書館運営企画課デジタル企画係長	佐藤 孝徳
中央図書館奉仕課奉仕係長	堀尾 節子
中央図書館奉仕課資料係長	善家 三知代
子ども図書館企画係長	荒田 智代
子ども図書館学校図書館支援係長	北谷 真司

○傍聴者 2名

会議次第

- 1 連絡事項
- 2 議事「これからの図書館のあり方(答申)」の検討
 - (1)基本的な方向性(試案)について(提案)
 - (2)市民アンケート項目(案)について(提案)
- 3 その他

1 連絡事項

・館長挨拶

2 議事

(1) 基本的な方向性(試案)について(提案)

資料に基づき、事務局から説明。

(事務局)

資料に示した「これからの図書館のあり方」基本的な方向性(試案)は、北九州市立図書館の目指すべき方向性や大きな施策の方針について、図書館より案を提示させていただくもの。考え方の流れは表の右から左に収斂されていくような形をとっている。

一番右の④「委員・職員から出された意見」には、第2回図書館協議会において委員よりいただいた意見と、同時期実施の図書館職員対象アンケートの意見を記載。そこで挙げられた個別意見を整理し、③前回の協議会でご説明した「図書館を取り巻く社会動向など」も鑑み、より大きなまとまりに集約したものが①の3つの大きな「基本的な方向性」と、②の8つの「施策の方針」である。

今回提示するものはあくまでも試案であり、本日の協議会での協議の後、現時点での仮案とさせていただきます。今後、8～9月に実施予定の市民アンケートや聞き取り調査、視察の結果を合わせた上で、協議会より仮案に加筆をいただき、年度末の図書館協議会における答申完成を予定している。

(委員)

1 点目は、従来からの図書館の役割を引き続き継続するものと、社会環境の変化や市民ニーズの変化に合わせ強化する部分を明確にまとめた方がよい。

2 点目は、ターゲットの年齢別の軸と図書館利用の目的の軸という2軸のマトリックスで考え、どのようなニーズがあるかということ整理して、市民アンケートにつなぐとよい。

3 点目は、参考にする他都市の状況については、北九州市と同レベルの自治体の情報を視察やヒアリング等で情報収集する必要があると思う。

(事務局)

1 点目については、施策の重みづけについては、「あり方」の文章表現の中で工夫していく。

2 点目については、市民アンケートの結果を属性とクロス分析をすることで、各世代のニーズを分析していきたい。

3 点目の他都市の情報については、北九州市と同規模で、かつ新しい取組みをしているところから積極的に情報収集をしていきたい。

(委員)

Ⅲの(1)子ども読書推進について、読書推進の前段階の本を好きになってもらうための取組を②の下位項目の中に入れるとわかりやすい方針になるのではないか。

(事務局)

本好きになってもらうということは、図書館に来る前段階の大切な視点であるので、子ども読書プランやアンケートの結果から出たニーズと併せて表現の仕方やまとめ方など工夫していきたい。

(委員)

高齢者にターゲットを絞った取組みをすることも大きな市の課題と思う。

(事務局)

高齢者を含めた居場所づくりは、Ⅲの「ひとをつなぎ育む図書館」の項目にあたるので、きちんと盛り込んでいきたい。

(委員)

高齢者については、キャリアをもった人材としても活躍してもらえらると思う。居場所だけでなく活躍場所としての図書館という意味では、Ⅱの(1)にも含まれると思う。

(事務局)

図書館からサービスを提供するだけでなく、高齢者の力を図書館に貸していただくという視点もあると思う。

(委員)

各区の特徴や利用者の年代などターゲットを考慮していくと面白いのではないか。

(事務局)

7区の地域性や特色(文化基盤、産業基盤など)を出すというのは1つあるが、あまりターゲットを限定していくとターゲットから外れてしまう人は困るので、バランスをとる難しさはある。基本的なことを押さえつつ、特色を出す方向を検討していきたい。

(委員)

これからは読書の空間を大事にして、建物の構造を生かしつつ遊び心があるようなことをアンケート結果から吸い上げていただきたい。

(事務局)

アンケートからそこまで出てくると嬉しい。図書館関係者や大学生等、アンケートとは別にヒアリングを実施し、面白い意見を聞きだしていきたい。

(委員)

ターゲットを絞るのは公共施設としては難しいが、「〇〇デー」や「〇〇月間」などのような時間分割をする方法もある。

(委員)

サービスの質を高めるために、サービス合戦になる。一方で、ビジネスとしては厳しいものがあり追い詰められていく。公共サービスとして、選択と集中をしていかなければ、何でもやるということでは、結局効果が薄れるのではないか。

(事務局)

この試案の中でも、「持続可能な図書館運営」という言葉を使っているように、全部今まで通りとか今まで以上にやるというのが難しい状況である。これはやる、これはやめるということもこれから必要になってくると考えている。これはもういらぬのではないか、こちらの方が大事だという議論も今後出てくると思われる。そういう意見をいただけるとありがたい。

(委員)

「地球の歩き方」というガイドブックの北九州市版が出るとニュースで聞いた。こんな本に図書館のことを掲載してもらおうよう働きかけをするなど、情報発信が大事であると思った。

(事務局)

確認する。

(委員)

委員や職員から出た意見が的確にまとめられており、今後の方針や課題がはっきりしたと思う。これから図書館として取り組むべき重点課題の一つに、読書困難者への対応がある。今回示された施策の方針の中では、いくつかの分野に重複しているが、今後方針をまとめるにあたって、この「読書困難者への対応」を独立させてまとめた方が社会へのアピールも高くなると思われる。

(事務局)

「読書困難者への対応」はここ数年頑張って強化している分野なので、もう少し検討をしていく。

(2)市民アンケート項目(案)について(提案)

資料に基づき、事務局から説明。

調査の実施方法、対象者、スケジュールなどについて

(委員)

アンケートの回答がウェブによるものがあるので、QR コードが載っていれば、調査範囲を広げてはどうか。

(事務局)

調査会社の統計の専門に尋ねたら、フリーで回答できるようになると、母集団がわからなくなり、統計の精度としては落ちるため、望ましくないとのことであった。

母集団がはっきりわかっているならば、その母集団全体を代表するという統計の考え方に則っている。統計の対象をどこまで広げるかについては検討の余地がある。皆さんのご意見を伺いたい。

(委員)

前回平成 27 年調査との比較で、大きな違いは子ども図書館ができたことである。小・中高校生は調査対象となっているが、保護者が子どもに読み聞かせをしているかとか、ブックスタートで配られた絵本をどう利用しているかということを見ると、対象を前回と変えてもいいかと思う。

(委員)

図書館がどのターゲットを考えているかという議論があったことを考えると、子育て世代の意見が対象から落ちている可能性が高いと思う。お子さんを学校や幼稚園・保育所に通わせている親御さんからの意見を取るのには意味があると思う。

(委員)

案では、18 歳以上の市民を住民基本台帳から単純無作為抽出ということになっているが、対象となっている集団について年齢階層別にそれぞれ同じ数だけ無作為抽出する方法がある。それをすると先程からの子育て世代の意見を反映すべきということもある程度解決されると思われる。

(委員)

抽出された一般市民3,000 人は前回の回収率が低かったと聞いているが、その点は分析できているか。

(委員)

統計学を教えているのでわかるが、郵送で行った場合はこの程度である。前回の回収率は25%で、通常20%なので、回収率は高い方である。

(委員)

3,000 人に郵送して20数%を集めることに注力するか、より見たいところに集中的にアンケートを取って意見を聞くか、そこが判断の分かれ道ではないか。

(事務局)

3,000 人は 3,000 人としてアンケートを行うが、子どもたちには聞いて、親世代に聞いていないのは確かにそのとおりである。保護者に届ける方法がありそうなので、検討していきたい。

(委員)

北九州市内の全学校の PTA 会長に PTA 協議会からメールを出すことができる。

(事務局)

後ほど、相談させていただきたい。

意見をいただいた無作為抽出の件については、区の人口比に従って、男女のバランスはとっているが、年齢の条件は付けていない。分析の時に、回答いただいた属性別にクロス集計をする予定である。また、ウェブ回答があるので、前回よりも回答率が上がることを期待している。

(委員)

前回の調査では、公立高校7校の生徒が対象になっていた。今回は小中高で1,000人程度ということで、対象が増えているが、この経緯を教えてください。

(事務局)

子ども図書館ができ、子ども読書プランが実施されていることもあり、今回のあり方の試案の中でも「子どもの読書推進」を挙げている。また、前回調査時にはなかった一人一台タブレット端末が配られていることから、比較的容易に子どもたちの生の声を聞くことができると考え、対象を広げた。

特別支援学校の生徒や幼稚園・保育所・小中学校の保護者、また、外国籍の方には、ヒアリングを実施するなど別途方法を考えたい。その時にご協力をお願いしたい。

(委員)

児童・生徒を入れることは大丈夫だが、対象が中3、小6ということだが、中3はとても読書という感じではないし、小学校でも学年が増えると読書冊数は減る傾向にある。それらを考えて、小中高それぞれ学年を一つ下げてはどうか。

(委員)

高校では大学入試が年内にあるものが半分以上、しかも、本を読ませ、資料を集め、小論文を書くといった取組みが3年生の段階でかなりある。そのため、高校生は2年生より3年生の方がよいと思う。

(委員)

小6、中3で学力学習状況調査があり、読書についても質問項目があるので、本人たちにとっては答えやすいと思う。

(会長)

小中高の対象を含むアンケートの実施概要等については、また図書館の方で検討してもらいたい。

アンケート項目について

⇒：事務局の回答

アンケート項目 分類	問番号	委員からの意見 ⇒ 事務局の回答
読書について	問1	<ul style="list-style-type: none"> ・何冊くらいの本(雑誌以外)は、電子書籍も含むか。⇒含む。質問文に「電子書籍を含む」を追加する。 ・「読む」だけか、「読んであげる」を含むのかを明記する。⇒検討する。
	問2	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ物をするときにまずスマホ等で調べるのが当たり前になりつつあるので、より深い情報収集をする場合を聞くようにしてはどうか。⇒質問文に「より深く」という意味を含める。 ・選択肢③「他の人に聞く」は、家族に聞くことなども想定しての質問か。子どもにアンケートを取るときは、ネット社会での人とのコミュニケーションが結果で見えるような聞き方にしてはどうか。⇒小学生版に「家族や先生などの」の言葉を入れる。
図書館の利用 状況について	問4	<ul style="list-style-type: none"> ・頻度についての選択肢は人によってとらえ方が変わるため、具体的な数字を入れたほうが良い。⇒修正する。
開館時間延長 について	問11	<ul style="list-style-type: none"> ・開館時間の延長の希望を聞いて、希望が多ければ開館する可能性もあるのか。もしその可能性があるなら、選択肢も具体的な開館時間の延長を想定して細かくしてはどうか。⇒問10の「現在不便を感じるか」と2段階で、開館時間に関するニーズを拾うようにしている。ニーズが高ければ、検討する。
電子書籍について		なし
図書館のサービスについて	問16	<ul style="list-style-type: none"> ・選択肢①～③の「インターネット」は「ホームページ」の方がよい。⇒検討する。
	問17	<ul style="list-style-type: none"> ・選択肢⑫「環境(SDGs)」とあるが、SDGsの概念はもっと広いものなので、括弧の中には入れない方がよい。⇒再考する。
	問18	<ul style="list-style-type: none"> ・選択肢⑨「自動貸出機」は、「自動貸出・返却機」にした方がよい。⇒修正する。 ・選択肢⑨に自動消毒器も入れてはどうか。⇒検討する。 ・選択肢に「学び直しにつながる各種講座の開催」、「地域情報の発信」を加える。⇒表現を工夫して追加する。

4 その他

(事務局)

- ・アンケート及びヒアリング等の実施におけるご協力をお願い
- ・今回協議会の意見取りまとめについて
- ・次回協議会の日時について